

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	"いつまでも「健やかに」「楽しく」「その人らしく」をもとに、地域の一住民としての日常生活や外出活動の支援を行っています。"という理念を作り上げ実践している。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の申し送りで確認しあい、理念を共有し、実践するためのアイデアや工夫を凝らしている。利用者に向き合う際に、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族や地域の民生委員さん、近所の方々、ボランティアの方の訪問時に、理念の具体的内容の書面や記載された通信を渡して説明し、理解してもらえように取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方々、地主さん、民生委員さん、ボランティアの方に気軽に立ち寄ってもらい、米、野菜、草花などを頂いたり、季節の行事に参加させてもらうなど、日常的な付き合いができている。犬の散歩の方や近所の方が気軽に立ち寄ってもらえる。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の老人会のいきいきサロン、自治会のゴミ拾い、マンション住民の地域活動、お祭りなど行事に積極的に参加している。また地域の公園で地元の人々と顔なじみになったり、幼稚園、小学校、中学校、高校とは互いに行き来して交流がある。近所の方やボランティアの方にもよく訪問して頂いたり民生委員さんの紹介で、地域のイベントには数多く参加できている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の 暮らしに役立つことがないか話し合い、 取り組んでいる	利用者の日常生活を第一にしつつ、地域の高齢者向けに 週一回の体操教室開催や、いきいきサロンで知り合いに なった高齢者がホームに遊びに来て下さることがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでい る	運営者は管理者、職員に評価の意義や活かし方をわかりや すく伝え、全員で具体的に各項目を実践し、前向きに質の 向上を図っている。また、評価の活かし方の冊子で理解を 図っている。昨年の評価を受け家族とのコミュニケーションの 向上、幅広い年代の学生との交流に努めている。また、さら なるセンター方式、チェック表の改良や重度化への対応を 図り、ケアの質の向上に努めている。地域の住民や他の ホームとの交流も盛んに行われるようになった。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回確実に開催して11回を数え る。毎回違うテーマを話し合ったり、利用者の状況やサー ビスの実際を写真で見てもらい報告している。会議のメンバ ーと話し合いそれぞれの幅広い立場の貴重な意見を積極的に 取り入れている。自己評価及び外部評価の結果を公表し、 評価の取り組みや改善への取り組みを説明し、モニターして もらい多くの意見、アイデアをサービスの向上に活かしてい る。メンバーの専門性やネットワークを活かして様々なイベ ントに参加させて頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町 村とともにサービスの質の向上に取り組 んでいる	市町村担当者に事業所の考え方、運営の実情を積極的に 伝えるために、パンフレットや通信を定期的に持って行っ ている。利用者の入居の問い合わせも多く、訪問時にはコ ミュニケーションをとり運営の実情を伝えている。市町村主 催の研修や講演会にも積極的に参加をしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	運営者が社会福祉士であり、また職員が地域権利擁護事業 や成年後見制度の文献を読み学んで、利用者が必要と考え られるか話し合いを持っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅 や事業所内で虐待が見過ごされることが ないよう注意を払い、防止に努めている	職員全員が県と市の高齢者虐待防止関連法マニュアルを 読み学び、職員がしっかり知識を持ち、日頃より声かけ、接 し方に改めて注意を払い、虐待の徹底防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	前もって契約書等を渡しじっくり理解いただいてから契約を結んでいる。契約解除の際も十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
13	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々運営者、管理者、職員が個別に利用者の意見、不満、苦情を伺い改善に取り組んでいる。運営推進会議にも参加して頂き、各々が外部者へ表せる機会を設けて運営に反映させている。		
14	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について訪問時や電話にて定期的に報告し、意見を伺い、今後に活かしている。個別に合わせて日々の様子の写真、ホーム便り、通信、往診記録、出納ノートを用いて報告している。		
15	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	積極的にコミュニケーションを密にして言い出しがたいことを考慮した上で、訪問時、電話、書面を用いてくり返し率直に意見を伺っている。頻発に連絡や会話ができていたので、要望等を引き出せている。また運営推進会議を利用して外部者へ表せる機会を設けている。意見、苦情を貴重なものと捉え、家族要望ノートを活用して、すぐに改善し反映させている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営方針、理念、イベント、外出先企画、ケアの仕方やシフトについて意見や提案を聞く機会を設けている。また日頃のコミュニケーションを密にしたり、月2回のミーティング時に目的を明確にして意欲の向上や質の確保につなげている。		
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な状態の変化、要望や外出、通院に柔軟に対応できるよう近所の職員を多く確保している。またよく話し合い二時間から時間帯を問わず入れる勤務の調整を可能にしている。		
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が集まり始めたときから、現在8人の職員が残っており、馴染みの関係は継続できている。離職も必要最小限に抑えるようコミュニケーションを密にしている。代わる場合馴染みの関係にあった利用者にきちんと説明し、近所の方が多く、時折顔を見に来てくれる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は段階に応じて育成するための計画を立て、順次様々な外部の研修を受けている。全員入社時研修を受け日々の業務で働きながらトレーニングをして現場で内部研修をしている。また千葉県グループホーム連絡会やセミナー講習、他グループホームでの外部で受け、研修内容を持ち帰り内部で勉強会をしている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の親交のあるグループホームに職員が研修に行ったり適時問題や悩みの解消のためお互い協力している。千葉県グループホーム連絡会に参加し、職員は研修や事業者間の交流に参加してサービスの質の向上に取り組んでいる。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日々適宜相談を受け、コミュニケーションを密に図っている。また心身が休める休憩室の確保、業務の担当制、外出機会が毎日あり、ストレス軽減に積極的に取り組んでいる。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	日々仕事への取り組みのため目的を明確にして、ケアの仕方、仕事へのやりがいを聞いて実践できるように配慮している。資格奨励、研修参加、希望を考慮したシフトを組み、向上心を持って働けるように努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	体験入居を設け、期間中本人の安心と関係作りをじっくり努め、話をよく聞く機会を作り、しっかり受け止め、信頼関係作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の立場に立ち要望や苦勞されてきたことの話をしっかり聞き受け止め、関係を築いている。本人と家族や家族間での考え方の違いも含め、受け止める努力をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人、家族の状況、要望を受け体験入居で試して頂き、当ホームだけでなく、必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。介護保険のサービスや制度、利用手順など丁寧に説明している。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族等と十分に相談して、いきなりサービスの利用を開始するのではなく、状況に応じて期間を定めない体験入居の機会を設けている。本人が職員やサービスの場合、他の利用者に徐々に馴染みながら、本人の安心と納得の上で利用に移っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入浴、洗濯、食事、散歩、買い物、外出、レク、体操、布団敷き、野菜作り、掃除、昔話、縫い物等を通じて一緒に過ごしている。本人から学んだり支えあう関係の中で、一方的な関係にならずに喜怒哀楽を共にしている。		
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	訪問、電話、イベント等を通じて、コミュニケーションを密にしている。家族と喜怒哀楽を共に、本人の日々の生活を一緒に支援していく対等な関係を築いている。		
29	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係を理解して良い関係が築けるようにしており、家族の訪問も多い。また、訪問時の間を取りもち、場所の確保やイベント参加、外出支援などを積極的にしている。疎遠の方には電話で訪問を促して関係継続のため、ホーム便り、通信を送り、様子を知らせている。		
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を伺い、個別に以前住んでいた場所にお連れして馴染みの人の所や場所に行っている。それがきっかけで、近所だった方や友人がホームに来てもらえたり、手紙のやり取りが増えた。		
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士仲が良く、食事、掃除、洗濯物たたみ時や日頃居室の行き来などがあり、共に助け合い支え合って暮らしている。職員は万が一、利用者同士の関係が悪化した時は、早期に気づき話し合いを持ち、支援に活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族の元に戻られた方には、利用時培われた関係を大切に、ケアに関する相談や支援に応じている。その後の経過を伺い必要な場合は適宜支援している。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式の各シートを用いて、適宜詳細に一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は家族とスタッフが本人の視点に立って意見を出し合い話し合っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、プライバシーに配慮しつつ家族に生活歴やこれまでのサービス利用の経過等を伺っている。入居後はセンター方式を用いて適宜、日々の生活の中で観察や本人から意見を伺い、これまでの暮らしの把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	センター方式のシートで一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、本人の出来る力、わかる力を職員全員が現状を総合的に把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	心身状態や他入居者との関係をふまえ、本人がより良く暮らす支援は何かを考えている。本人、家族、職員が話し合い、本人本位の介護計画作成のため、それぞれの意見やアイデアを反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	設定した期間での見直しはもちろん、本人、家族の要望や状態の変化に応じて、話し合いをして現状に即した介護計画の見直しをしている。また月二回ケアカンファレンスで最新の情報や気づき、意見、アイデアを見直しに活かしている。利用者一人ひとりの計画に対するモニタリングは月一回行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子の事実、ケアの実践、結果、気づきや工夫を具体的に記入している。職員間で情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、要望に応じて馴染みの職員が以下のことを柔軟に支援している。・介護予防の体操の先生に毎週来て頂き、運動機能の保持に努めている。・馴染みの往診の先生、看護師配置で医療連携体制を整えている。・運営方針である外出支援を福祉車両を用いて活かしている。・職員が柔軟にいつでも通院介助可能である。・ボランティアの方、地域住民の方々との交流が多い。・毎日、レク、知的機能保持訓練、体操等を続け、効果を上げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向や必要性に応じて近所の民生委員さんが運営推進会議の参加や、時折入居者の顔を見に来て頂いている。また本人の要望より畑作りの手伝い、お話し相手、歌のお兄さん、ピアノの先生などのボランティアの方々が来て頂ける。警察の方には防犯、見回りを依頼、消防の方には避難訓練の指導をして頂いている。		
41	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い本人の意向に沿って、訪問理容、訪問美容、マッサージ、市民センターで月一回のいきいきサロンに参加している。		
42	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議で地域包括支援センターを連携が取れているため、本人の意向や必要性に応じて権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメントなど協働している。		
43	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族に相談し馴染みの医師による継続的な医療を受けて頂き、話し合いや情報のやり取りをしている。また本人と家族の同意と納得が得られた往診を受け受診結果の情報の共有をしている。また健康面で何かあった場合、その都度相談し関係を築いている。		

【千葉県】グループホーム かがやき

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医療機関に認知症の医療に詳しい方がおり医学的なアドバイスを頂いている。何か状況の変化があった場合には、受診を個別支援をしている。		
45	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者を良く知る看護師の職員が近所に住んでいて対応している。また往診の医療機関の看護婦長さんに何か状況の変化があった場合、気軽に相談しながら対応している。職員は相談を日常の健康管理に活用している。		
46	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院は慣れない場所、治療処置等で本人のストレスや負担が多く認知症の進行も考えられるため、以前二つのケースで家族と相談しながら医療機関に対して情報交換やケアについて話し合いをして早期に退院できるように支援を行った。		
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方に関して、往診の協力医療機関と医療連携体制を整えている。本人、家族等に重度化した場合における指針を説明し同意を得ている。また本人、家族等、主治医や看護師、介護スタッフ等関係者が状況に応じて繰り返し話し合い全員で計画を作り方針を共有している。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の利用者が日々を安心、安楽に暮らせるために、対応が出来ること、出来ないことを話し合い、家族や協力医療機関等と連携を密に図り指針や介護計画を共有しチームとして支援に取り組む体制を整えている。		
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住むことのダメージを最小限にするためケア関係者間で話し合いやこれまでのグループホームでの様子、ケアの仕方などを詳しく伝え情報交換を行い、暮らし方が継続するように配慮する。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いを全職員がしないよう互いに日常的に確認して徹底している。個人情報保護法の資料を読み理解に努め、各個人のファイルを事務室で管理して、秘密保持の徹底を図っている。またプライバシーの保護のため写真の掲載の際は承認の可否を文書で頂いている。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	各個人の思いや希望を表せる状況に応じて、日々改めて表情や身体反応を見ている。簡単に選べる声かけや道具を活用し注意深くキャッチして自己決定を支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のリズムやペースを大切に、その人らしいものとなるように職員が随時、伺って利用者に合わせている。また、こまめに活動内容に応じたシフトを組んでいる。センター方式を活用して本人がその日をどう過ごしたいかを詳細に調べて日々の支援に活かしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとりの個性、希望を大切に、訪問理容、訪問美容を活用している。入居者全員が女性より、服装のおしゃれの支援のため買い物によく出かける。身だしなみやおしゃれの支援をすることにより、気持ちにハリが出て、表情がいきいきとされている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に各利用者がそれぞれ買い物、調理、食事、後片付けの作業の中で力を発揮して頂いている。やってもらうのではなく各利用者がやってみたいという気持ちを引き出す支援をしている。また嗜好調査を実施し利用者と職員が楽しく美味しい物を一緒に食べている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	センター方式を活用して適宜嗜好調査を行い、食事の献立、お茶の時間の飲み物、おやつに活かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表でパターンを把握しトイレで排泄して頂いている。それにより日中はオムツを減らしパンツで対応している。		
57	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	季節ごとに一人ひとりに時間帯、タイミング、曜日、体調、長さ、週に入る回数、順番等を伺って、くつろいで入浴して頂いている。羞恥心等に配慮し同姓の職員が介助を行っている。		
58	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり十分な睡眠が取れているか確認または伺っている。出来る限り本人にとって自然に眠れるよう昼寝や日中の活動を取り入れ一日の生活の仕方を細かく見直し工夫し職員間で検討し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で一人ひとり自ら自然に役割、楽しみ事、気晴らしをされている。また利用者が昔やっていたことや体で覚え込んでいることを思い出して頂き、自分らしい姿でいきいきとされるように、職員は日々関わり方、ケアの仕方を改めて学んでいる。		
60	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族とよく話し希望や力に応じて出納帳をつける、立て替え、少額所持して頂く等して納得、安心して頂けるよう支援している。それにより買い物時、安心して楽しめるよう支援している。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援を運営理念の一つにしており、積極的に支援している。各人個別にその日の希望を伺い、散歩、買い物、ドライブ、季節ごとの各所巡りは数多く、色々な所に行っている。ホーム周りは外出しやすい環境で毎日少しでも外に出る機会を作り、気分転換や心身により刺激を得ている。重度化した利用者でも外出できる福祉車両を配備している。地域の住民と顔馴染みになり、老人会や地域の集会等にも積極的に参加している。		
62	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かける機会をつくり、支援しているシステム	福祉車両を活用して他利用者と一緒に、各個別に本人の希望にそって普段行けない特別に行きたい場所や、昔住んでいた懐かしい場所に行くことができた。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個別に希望や有する力に応じて家族や大切な人との関係をつなぐため日常的に電話をしたり、受けたり、手紙のやり取りをして外部との交流を支援している。それにより、家族のコミュニケーションや訪問が増えた。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	平日、土日に関わらず、家族、知人等の馴染みの人たちの訪問が多く、いつでも気軽に訪問できるよう、また居心地よく過ごせるように職員の対応、湯茶用意、スペースを確保して配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が身体拘束の内容を文献を用いて学び、その弊害を認識して、日々申し送りやケアカンファレンスで拘束は行わないことを徹底している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員は、居室や日中玄関に鍵をかけることの閉塞感、不安を理解しており玄関ドアのチャイムや事務室からの小窓を使い工夫している。開放的な運営方針のため、地域や家族の方々に理解や協力を得て、鍵をかけず自由に外に出て頂けるケアに取り組んでいる。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各個別の状況や性格を考え、昼夜通してプライバシーに充分配慮してさりげなく見守っており、安全を確保している。夜間は状況を最も確認しやすい位置で見守っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一律に注意の必要な物品をなくすのではなく、各利用者の状況に応じて危険を防ぐための工夫やヒヤリハットを活用している。また検討をした取り組みを実践して生活の場であることを確保している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、誤薬、行方不明等を未然に防げるよう一人ひとりの状況から考えられるリスクを検討している。職員全員でヒヤリハットの報告と気づきを集約して事故防止に活かしている。事故が発生した場合、状況を正確に伝えることを職員が徹底して行い再発防止について具体的に検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の応急手当の講習や避難訓練の時、指導を受けている。また急変や事故発生時にも慌てず、実際の場合で活かせるよう日常訓練をし必要備品を備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の避難訓練を定期的に受けている。また適宜いざというとき慌てず昼夜を問わず物品の備えをして避難出来るよう、職員と利用者が一緒に訓練を繰り返している。日頃より地域住民、警察、近所の消防団、近くの職員、消防に協力が得られるようお願いをしている。また災害マニュアル、家族への連絡表があり、避難経路の図式化や避難用すべり台を設置している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の状況、変化に応じて家族に具体的に起こりうるリスクについて繰り返し話をしている。また運営方針より、抑圧感のない暮らしを支援するために工夫している対応策を説明し、納得を頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は日々一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努められるよう観察をして、気づいたら速やかに報告し合っている。医療連携体制を整えている往診のかかりつけ医や行きつけの総合病院、近所に住んでいる看護師を確保しており対応できるよう準備している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬箱と名入り薬袋を用いて、飲み忘れ、誤薬を防ぎ、特に薬が変わった場合注意し全職員に伝わる仕組みが出来ている。利用者の状況の変化があった場合速やかに看護職員や医師に伝えられるよう、日常の日誌に状態の経過を記録している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排便の有無を確認して、一人ひとり個々の状況に応じて原因を探っている。薬だけに頼らず、予防と対応のため散歩、体操、食物、水分量、睡眠で調節できるよう支援して自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの習慣や力に応じて、毎食後口腔ケアを支援している。また訪問歯科の口腔ケアの先生に指導を受けている。その指導を活かして利用者の力を引き出しながら支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が二人おり個々に応じて食べる量や栄養バランス、食事の出し方、介助の方法を工夫している。また一人ひとりメニューの嗜好調査の実施や、お茶の時間を設け様々な飲み物を選択できるようにして水分量を確保している。チェック表で個々の食事の摂取量を職員全員が把握し、支援に活かしている。糖尿病の方向けにカロリーコントロールもしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防に関して最新の流行情報や全職員が感染症予防、マニュアルを活用している。手洗い、うがいを、利用者、職員は徹底して励行し予防に努めている。また保健所に連絡を取り、予防や対応策について指導を受け、職員は、予防策、早期対応を学び、実際の対応が出来るように学んでいる。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	栄養士の病院勤務の経験やマニュアルを活かし食中毒の予防のため新鮮で安全な食材の使用、台所の衛生管理を取り決めチェック表を用いて徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	親しみやすく安心感を持ってもらえ、訪れやすいよう花々を植えたり、段差のないようにスロープにしている。利用者や家族、近隣の住民に運営推進会議で客観的に意見を伺い玄関や建物周りの工夫を続けている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや居間、食堂には季節の花々を多く置き、安らぐ音楽をかけている。利用者にとって不快な音や光がないか注意を払っている。馴染みのものや外出時の写真、利用者が作った作品を飾り居心地よく過ごせるよう、生活感や季節感を採り入れている。また利用者、家族、地域の方、運営会議メンバーに客観的な意見を伺って、工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間に応接間、ホールを設け、一人になれるスペースや気のあった利用者同士で過ごせる居場所を工夫している。トラブルがあった場合や集団生活におけるストレスの軽減に活用している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談して思い思いの馴染みの物を持ち込み頂いて、不安やダメージを少なくする工夫をしている。本人の持ち物が少ない、意思の疎通が難しい利用者にも職員や家族が協力して居室作りに取り組んでいる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	職員全員が各箇所の気になるにおいや室内のおよみを見過さず適宜窓明け、換気扇を用いて換気を行っている。温度調節も利用者の一人ひとりの状態や反応を見てこまめに外気温と大きな差がないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かしてあくまで普通の生活の場としての備えをしている。玄関周りのスロープ、各箇所の必要最小限の手すり、滑り止めマットを敷いた階段でできるだけ自立した生活を送って頂く工夫をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者の認識違いや、判断ミスでの混乱や失敗を防ぐために一人ひとりのわかる力を見極め、各所の居室と共有空間に表札やホワイトボード、カレンダー、大きい字の時計を用いて工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外回りのテーブルと椅子でひなたぼっこができ、またベランダに物干しを置き洗濯干しができる。さらに利用者の力を活かすため畑を借り、野菜作りや玄関周りの植木の手入れや水遣りが楽しみの一つになっている。		

. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

【千葉県】グループホーム かがやき

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)